



# 神崎小だより



学校教育目標…心豊かでたくましく生きる児童の育成  
めざす児童像…なかよく かしこく たくましく やりぬく  
合言葉…【笑顔(スマイル)】 【行動(フットワーク)】 【協力(サポート)】  
〈 早寝・早起き・朝ご飯 〉

北風の吹く寒い日の昼休みのことです。西側花壇で4年生と5年生が何やら話をしていました。耳をすませてよく聞いてみると・・・「水をまいて次に草抜きをするんだよ」「うんっ」・・・どうやら委員会の仕事を教えているようです。学校では、来年度に向けての準備が進んでいます。児童の間でも仕事の引き継ぎが行われているようです。こうやって働き者の児童が多い神崎小学校のよい伝統が引き継がれていくのだと感じさせる昼休みでした。

## 読書のススメ

保護者の皆様の愛読書は何でしょうか。また、人生観をかえた本に出会えたでしょうか。

私（校長）にとって思い出に残る本は3冊あります。1冊目は高校生の頃に読んだ、司馬遼太郎氏の『竜馬がゆく』です。激動の時代に生きた青年たちの行動に心を打たれました。2冊目は、灰谷健次郎氏の『兎の眼』です。教員になるきっかけにもなった本です。3冊目は、大学生の頃に読んだデズモンド・モリス氏の『裸のサル』です。この本は、人間とは何かを考えさせられました。

ところで、子どもにとって本を読むとどのようなメリットがあるのでしょうか。

子どもが本を読むと集中力が付き、大人になっても忍耐力が養われることが最大のメリットと言われています。また、読書を通じて語彙力（ごいりよく）が高まり、人の話を聞けるようになり、人の気持ちを理解できる人間になるともいわれています。子どもの頃に読書をした人は、大人になってからもコミュニケーション能力や社会性の高さが報告されているそうです。さらにある脳科学者は、「読書をするを脳を活性化させて、脳の発達成長も促進させる」と伝えています。読書をするを正確に物事を理解することができ、大人になっても正しい判断ができるようになるとのことです。

このようによいことばかりの読書ですが、現在は活字離れとって本を読む大人も子どもも少なくなっているようです。実際、本校で行った教育活動アンケートにおいて、ほとんどの調査項目が80%以上の高評価に対し、『読書指導が推進され、子どもが本好きになっている』の項目は58.2%の低評価でした。

学校では、朝の読書タイムを設定したり、よい本の紹介をしたりして読書好きの子どもを増やすよう工夫しています。ぜひ、おうちでも本について話題にしてみたらどうでしょうか。

## スローガンを決めて掲示しよう大作戦

佐原法人会様から「学校で自由に使ってください」と10万円のご寄付をいただきました。そこで、何に使おうか検討した結果、児童会で横断幕を作って掲示することになりました。文面・デザインともに児童会役員児童が作成したものです。できあがった横断幕は、東門フェンスと西門付近のガードレールに掲示しました。

たくさんの『あい』がある学校にしていきます！

※下が児童会役員が考えた文面・デザインです。なお、残ったお金で「ほうき」と「くまで」等、環境整備道具を買わせていただきました。

### 《3月の主な行事》

- 1日 あいさつ運動(中止)
- 2日 特別日課(7日まで)
- 10日 防犯ブザー点検
- 17日 給食終了(6年)
- 18日 卒業証書授与式
- 21日 春分の日
- 23日 地区児童会  
PTA会計監査
- 24日 給食終了(1～5年)
- 25日 修了式



### 《離任式について》

休み中の3月28日に離任式を行います。  
登校時刻は13:30、下校時刻は15:30  
(6年生は15:20)です。